



第 5 号

平成 9 年 10 月

# ガガやく

企画編集：生涯学習をすすめる市民の会編集委員

発行：入間市教育委員会生涯学習課

題 字：重度身体障害者の生活施設「大樹の里」

書道部

榎本とも子さん



## オオタカの親子

入間市には、保護の必要の高い「オオタカ」が繁殖できるような、すばらしい環境が残されています。(市内にて吉澤さん撮影)

「オオタカ」の繁殖地を保護する  
自然環境の大切さを伝える

わたしたちのまち入間市で進められている生涯学習は、豊かな自然とすばらしい環境によって培われ、歴史と文化と人情に支えられています。

加治丘陵や狭山丘陵をはじめとする豊かな緑、入間川・霞川・不老川などの水辺、広大な茶畑など、実にさまざま特徴的な自然が息づき、心なごませる風景をかたち作っています。

このような入間市の自然を親しみ・楽しみながら守っていくため、たくさんの方々やいろいろな団体の取り組みが進められています。

そしてこれらの取り組みは、多くの人々に「やすらぎ」と「うるおい」をあたえ、子供たちの成長におおきく役立っています。

入間の自然や環境をもっと学び、楽しんで、後世に伝え、いつの時代でも人と自然の良好な関係を深めていくことが、一人ひとりの役割であるともいえます。

今回は、入間市の生涯学習のひとつとして、皆さんの「自然とのつきあい方」に注目してみました。

# 川

## 清水橋かすみ会

市内の河川浄化を進める市民団体のうち、平成7年11月に読売新聞でも紹介された新久地区の「清水橋かすみ会」は、その活動内容のユニークさで注目されている。

「清水橋かすみ会」は、新久地区の区長経験者を中心に組織された団体で、霞川の美化運動の一環として、河川沿いの遊歩道に花や樹木の植栽と管理を行っている。

昔は、水泳や川遊びができた霞川も周辺の宅地開発と相まって、水質の悪化や水量の減少、水生生物などの減少が進み、また、河岸の斜面は宅地へと姿を変えてきた。

こういった状況の中、「清水橋かすみ会」は、自分たちのできることをまず実行しようとするやる気のある市民によって組織され活動している団体である。

特に植栽している花や樹木は、会員の農家のご主人たちに

よる無農薬栽培の野菜を無人販売所で販売した代金で購入するなど、独自の方法を考案し、実行していることは市の内外から注目を集めている。

河川浄化を進めるために、堤防の美化をすすめ、地域のシンボルとして、人々に愛される霞川の復権に着目し、しかも楽しみながら、いきいきと活動している。農業で培った知識と技術を活かし、昔からの霞川の変化を肌で実感している人々たちならではの活動と言えよう。これからの環境対策には、こういったネットワーク的な発想が必要であり、一層充実し、市民の中への広がりを期待したい。(清水)



霞川堤防での樹木の植栽風景

# 食

## こだわります 有機野菜で漬物を

木蓮寺在住  
長澤一彦さん(65)  
かつさん(58)

直径3〜4mはある大樽。重石の下には、塩漬け大根が8、000本ほど。上澄み部分にはカビが出ている、だから中の大根が生きているのだと聞いて驚く。土作りから始まり、大根を育て漬物になるまで2年をかける。

漬物作り40年のプロには、「有機肥料で育った大根は、塩をした後の手ざわりで、違いが分かる。」と言う。「経験のみ、何年たっても一年生です。今日する計画はやりとげるまで寝れない。」と頑固に守り続けてきた。

この一徹はまず、大根、ナス、キュウリ、白菜、ラッキョウと野菜を育てる。味噌漬は味噌から作る。納得のいくキムチのタレ作りに3年。冬に入るとべったら漬け。と漬物だけで20種類、そして初夏にはお茶作りと一年中休む暇なし。

この日も取材者に、手打ちうどん、キュウリの糠漬、酒まんじと全部自家製手作りを、ふるまってくださった。

一彦さんの親の代は麹屋。今は漬物屋。漬物に変わったきっかけは、「結婚した時、農閑期に出稼ぎにでなくて、できるから。」さりげないやさしさが返ってくる。一彦さんの隣でかつさんは「人手が増えたからよ。」

「夫婦は常に協力して、勉強と努力をしないとね。」互いに同じことを言う。どちらに似たのか、まさに夫唱婦随の二人である。



とニコニコ笑う。

かつさんも「麹屋に嫁にきたのだから麹の勉強から始まり、次々に挑戦して喜びに変えていく。子育てと同じですよ。漬物も、一味たりない時は、家中で工夫して、勉強、勉強よ。」

漬物屋で良かったことは、「仕事を通して大勢の人に出会えたことかな。様々な人と意見

交換して、視野は広がるし、お金より、人の為にすることは、自分への教え、それが人の道でしょ。」だから本物にこだわって、値段は据え置きのままなのか。

「夫婦は常に協力して、勉強と努力をしないとね。」互いに同じことを言う。どちらに似たのか、まさに夫唱婦随の二人である。

※長澤さんご夫婦のように、無(低)農薬、有機栽培、無添加、手作りなど、食材にこだわったり、こういう食材を使ったアイディア料理を考えている人もたくさんいます。特に入間市の特産のお茶を『食へる』工夫も最近注目されています。

今年の『いるま生涯学習フェスティバル』には、このような活動をしている方々に参加していただく予定です。皆さんもぜひご来場ください。

**リサイクル**  
環境先進国  
ドイツで研修  
関谷佳代子さん  
(市環境課職員)

皆さんは、ドイツにある入間市の姉妹都市をご存じでしょうか。私は、ミュンヘンから電車で約40分の所にあるヴォルフラートハウゼン市へ、職員交流研修で2カ月間ゴミ問題について勉強してきました。

ドイツは世界でも環境先進国と言えます。ゴミの分別収集は徹底しています。ゴミはリサイクルするというのが考え方の根底にあり、焼却や埋め立ては最後の手段として最小限にとどめています。

ドイツのゴミ政策は、自治体中心というよりは企業責任と消費者負担によります。商品にはグリーンポイントと呼ばれるマークが付けられ、その材質に応じた処理費用が商品の価格に乗せられます。ごみ処理は製造した企業または委託を受けた処理会社が、集まった処理費用で行うことになっています。これと平行して自治体でのゴミ収集

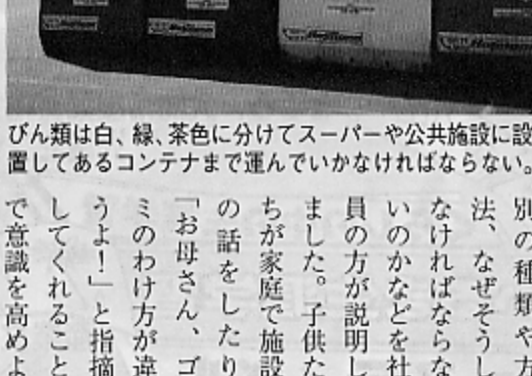
があります。

ヴォルフラートハウゼン市の場合は、自治体に代わりWGVという会社がすべてのゴミの収集から処理までを行っている。分別の方法としては生ゴミ(草・木を含む)、紙類、ビン(透明・緑・茶)、アルミ缶、スチール缶、プラスチック系容器、ビニール類、紙パック、古着、古靴、発砲スチロール、金属類、粗大ゴミ、古電池、古バッテリー、車のオイル、古タイヤ、塗料等々の化学製品、その他再利用できないゴミなどに分けま

す。各家庭に収集に来るのは「生ゴミ」、「紙類」、「その他のゴミ」だけで、それ以外は市内に数カ所ある集積所まで市民が自分で運ばなければなりません。また、「その他のゴミ」は容量に応じて料金を払う仕組みになっています。

WGV社が収集業務を始めた当初は様々な案内パンフレットを作成したり、市民からの問い

合わせに丁寧に対応することで普及を図ったそうです。また普及のもう一つの柱は、子供たちへの教育です。先生の協力を得て市内の小学校の生徒全員に処理施設を見学してもらい、分別の種類や方法、なぜそうしなければならないかなどを社員の方が説明しました。子供たちが家庭で施設の話をしたり「お母さん、ゴミのわけ方が違うよ!」と指摘してくれることで意識を高めようというのです。



入間市に比べると分別はとて細かいし、運ぶ手間もかかります。それでもこの制度が市民に受け入れられ、定着しているのは、ドイツの人々の一人一人に自然を大切にすることが行きて届いているからだ、私は感じました。

**森**  
もなか  
森の会  
緑の少年団

「緑の少年団」とは、子どもたちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通して、心豊かな人間になることをめざす人たちの集まりで、現在、埼玉県内に27の「緑の少年団」が組織され、いろいろな活動を行っています。

「森の会」は、宮寺・二本木地区の子どもたちを中心に、今年3月に結団された「緑の少年団」で、現在小学生から高校生まで27人の子どもたちと、保護者24人で構成されています。

その活動は、自主性を尊重し、地域の自然を、親しみ・楽しみながら守り、子どもたちの健全な育成に活かしていこうとするもので、狭山丘陵を活動の中心として、森の中の体験学習やコミュニケーションを主体に、いくつもの取り組みが考えられています。例えば、樹木の植栽、シイタケの栽培、間伐材を利用した炭焼き、下刈りやゴ



狭山丘陵での植樹祭

ミ拾いなどのボランティア活動も含まれています。

特に、炭焼きについては、入間川の水質浄化への活用も考え将来的には、近隣都市も巻き込んだ市民主体のネットワーキングりに発展させていこうとしています。

こういった取り組みを身近なところからはじめ、前向きに、着実に充実していこうとする「森の会」緑の少年団の活動には、今後、一層の期待が高まるものと思われ、市民や行政からの支援・協力を希望するものです。

「森の会」緑の少年団の活動に興味のある方は、代表者の細貝三朗さん(☎34-2943)へご連絡ください。(清水)

現在  
20日

# わたしたちも入間の自然とふれあい、楽しく学んでいます あなたもいっしょにやってみませんか？

## 入間遊び場づくり協会

子どもが本当に遊びたくなる、そんな創造的な冒険遊び場をつくり、自然の中でのびのびと思いきり遊ぶ中で、子ども達がお互いに育ちあい、仲間と関わる力や、たくましさ、優しさを身につけてほしいと、オヤジ達が立ち上がりました。

空間、物、協力者募集中です！

連絡先 山下昇 ☎63-4226

## よもぎの会

7年前の保健センター主催ヘルシーセミナー受講生が、講座終了後、自主サークルとなりました。春秋のハイキング、廃油利用のせっけん、肥料作り、手作り無添加味噌等のエコクッキング、はぎれを使った手芸等、時には講師を招いて学習しながら、環境も大切に健康づくりをめざしています。

連絡先 樽見貴美子 ☎62-4865

## 加治丘陵山林ボランティア

加治丘陵保全用地として市が取得している山林の下草刈り枝下ろし、間伐等の管理を通じて、里山としての加治丘陵を体験しながら理解を深めています。今年、間伐材の炭焼きをしながら、山林活用の基礎知識と実技習得を目的にしています。くわしくは市報をごらん下さい。

連絡先 市役所みどりの課 ☎64-1111

## こどもエコクラブ

平成7年度より、環境庁の取り組みとして子ども達が仲間と一緒に地域環境、地球環境に関する学習や具体的な活動を展開するため全国各地で設立されています。入間市では、ぶしっ子(仏子)ムッキーズ(小谷田)ゴロッコ、うっききくらぶ(野田)ちゅういんがむ(南峯)レクリエーション・クラブ(宮寺)の6つのクラブができました。

連絡先 市役所環境課 ☎64-1111



とき. 12月7日(日) 9:30~16:00  
ところ. 入間市産業文化センター  
児童センター ほか

第3回 **いるま生涯学習**  
**フェスティバル**

発表 展示 実演販売

講演会 **水城武彦氏**  
(NHK解説委員)  
講演テーマ **暮らし・経済・生涯学習**

産業文化センター  
ホール  
10:00~11:30

### ★お楽しみプレゼント★

私にとって生涯学習とは [ ] です。

[ ] の中に20字程度の言葉を書き入れてください。住所氏名を記入のうえフェスティバル当日「言葉のメモ」を受付にお持ち下さい。先着50名様に素敵なプレゼントをさしあげます。



### お問い合わせ・連絡先

〒358 入間市豊岡 1-16-1  
入間市役所生涯学習課内  
入間市生涯学習をすすめる  
市民の会 事務局  
☎ 0429(64)1111 内4123  
FAX 0429(64)4841

「かがやく」は企画・編集する側からの、一方通行ではなく読者の方々のキャッチボールの場です。「皆さんも編集委員」として、情報、提言などを、お寄せ下さい。  
(長谷川)

「かがやく」は企画・編集する側からの、一方通行ではなく読者の方々のキャッチボールの場です。「皆さんも編集委員」として、情報、提言などを、お寄せ下さい。

「かがやく」は企画・編集する側からの、一方通行ではなく読者の方々のキャッチボールの場です。「皆さんも編集委員」として、情報、提言などを、お寄せ下さい。

「かがやく」は企画・編集する側からの、一方通行ではなく読者の方々のキャッチボールの場です。「皆さんも編集委員」として、情報、提言などを、お寄せ下さい。